

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○カンファレンス・内部研修にて、理念及び利用者を第一優先と考えて指導をしている。又中崎地区の神社宵宮には今回参加を考えていましたが、天候が悪く中止している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○理念は玄関・台所と目に付きやすいところに掲示している。○日々のレク活動（風船バレー・散歩・輪投げ）の後に負けた・勝ったで笑いを誘い、皆で合唱している、又ホール内散歩時に職員が入居者と一緒に手をつなぎ、笑いながら口ずさむと入居者も又合唱になっている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○入居で契約される前、入居契約する時、入居者や家族等に説明文書と共に説明している。○パンフレット等の利用案内時の説明文書やホーム玄関にも明示している。○3ヶ月に一回「ホームだより」を地域管轄の駐在所、消防署、市役所、第二地域包括支援センターに配布している。また、町内会代表者にまとめて渡し町内では回覧板で見ることができる。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	○ホーム行事の際は、町内会の会長、民生委員、近所の方々に参加してもらっている。 ○面会者には、常に「また遊びに来てください」と職員が声かけをしている。 ③見学や認知症に関する相談、実習生、ボランティア等を受け入れたり認知症の予防・普及活動への職員派遣を行うなど、事業所を持つ専門性や実践経験を地域に還元する取り組みを行っている。	○ ○現在敬老会に日本舞踊をお願いしているが、地元のボランティア団体から要請があるので、検討している。また敬老会に来られている地域住民の介護勉強会も検討している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	○自己評価・外部評価後の結果については内部研修において、指摘ポイントを今後の検討材料として実施している。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	○運営推進会議席上で話されたものは重要視し、今後のサービスにも検討材料としている。○運営推進会議では年間スケジュールにて運営規程・重要事項・情報提供項目・自己評価・外部評価を説明している。	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	○「ホームだより」を3ヶ月に一度配布しており、開示できる情報は開示してい。また定期的な情報提供項目・外部評価の結果についても提供している。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	○外部研修等には、全職員が出席出来ないので講師を要請して、内部研修にて勉強し理解を深めている。	
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	○外部研修等には、全職員が出席出来ないので講師を要請して、内部研修にて勉強し理解を深めている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	○入居契約する際に、利用者や家族等に重要事項説明書と共に説明している。○利用者や家族等に十分に説明を行い、理解をしてもらい同意を得ている。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○入浴介助時、又はおやつ時等、利用者と一緒にテーブルに座り会話することで苦情を話せるように働きかけている。○意見等を上手に表すことができない利用者に対しては、職員が話し相手となって聞いている。○利用者からの苦情や相談は、カンファレンスや内部研修の場で検討し、速やかに対応し、今後の課題とし運営に活かしている。	
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	○3ヶ月に一度の割合で、家族へ「ハールト新聞」と入居者の近況報告書を発行し、又行事の写真等、定期的に報告している。○金銭管理は出納帳に記録し保管している。家族の方が見えた時、領収書・出納帳のコピーを配布し、出納帳には捺印をしてもらっている。○サービス等の変更事項があった場合は、事前に家族に報告し了解を得ている。	
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○家族等から、サービス内容についての苦情は寄せられていない。○遠方に家族がいる利用者もあり、なかなか連絡を取り合うことが困難な場合もある。しかし、電話で情報を伝えたり、文書でやり取りはできている。	
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	○定期的カンファレンスや内部研修を設けている。○一つの些細な介護の動作でも、助言や指導をするようにしている。日常的な会話の中で、話し合いがあると思っている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	○利用者の状態やホームの行事等、その時の場面を想定して勤務表を作成している。○職員の体調具合にも気を配り管理をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	○去年2名一身上の都合で退職しているが、利用者家族に説明し納得している。		
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○研修はできるだけ参加するようにしている。○受講した職員以外にも内容が他職員に伝わるよう報告書を作成している。○内部研修で発表も実施している。各人、勉強するように促している。○支障をきたさない勤務体制にしている。		
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○同業者とは、常に交流を持ち連帯を取っている。○お互いに行き来をして職員と交流も深めている。		
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	○職員間の親睦を深める為、年に四回慰労会、忘年会等と称して楽しむ場を設けている。また、個人的に楽しんでいる職員同士もいる。○内部会議において、職員の意見を聞き、休憩時間を定めている。また、事務室の奥に休憩室として、畳の部屋を用意してある。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	○運営者は、管理者が体調不良により突然退職し、現在管理者として勤務している。○年に2回、職員の健康診断を実施している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○サービス利用を希望し見学の場合は、他の施設を見て利用希望者に合うかどうか、十分に検討してもらっている。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	○サービス利用の相談を受けた場合は、本人・家族とで何が重要で、何が問題なのか、何が必要なのかを、相談をしている。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	○利用者が入居間もない時は、常に回りに溶け込むように職員からの声かけ・レク活動で話し合うことから始めている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	○理念に掲げている「笑あふれ」を目標に職員と一緒にレク活動・カラオケ・合唱に力を注いでいる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	○利用者と職員との間で、得た情報をうまく活用し、家族に伝えている。またその情報を取り、利用者には伝え満足している。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	○家族が遠方（県外）にいる利用者もおり、行事に参加してもらう機会が少ない。近隣町であつても「仕事が忙しい」と、言われる事が多い。ただ、近隣にいる家族に参加してもらうよう声かけだけはしている。○ハールト新聞では「今後の予定」の記載もしている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	○知人や家族からの手紙や電話は常に利用者に取り次いでいる。○利用者がどこかに行きたい等は職員からの情報により、家族の方に連絡を取るようになっている。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	○利用者の人間関係を把握した席順にしている。○利用者の生活を尊重しながら、自室に閉じ込まないよう常に声がけし、配慮している。○利用者同テーブルにて、レク活動するよう声がけしたり、ホールのソファや食卓テーブルの席で和やかに談笑出来るよう職員が雰囲気作りをしている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	○サービス利用終了後も、利用者の家族から相談や支援に常時対応できるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	○ホールで他利用者の居る前では希望、意向は言えないが、自室では言えるのではないかと自室で職員が話し掛けるようにしている。○利用者が自ら会話ができない場合は、担当職員が自室に赴きコミュニケーションを計っている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	○入居時に利用者・家族と居宅支援事業所から利用者基本情報を得ている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	○業務日誌や業務の申し送り、日常の状態を見て心身状態の異常がないか確認する。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	○介護支援専門員が利用者と面会し、意見を聞いている。○カンファレンス・内部研修において、利用者担当者から気づきを基に介護支援専門員が中心になり意見交換にて作成している。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	○実施期間以前でも利用者の状態に変化があれば、意見を書けるように空欄をつけ、見直しを行っている。○カンファレンス・内部研修において、利用者担当者から気づきを基に介護支援専門員が中心になり意見交換にて作成している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	○月一度のカンファレンスを行い、計画に沿って全職員から意見が出るようにしている。○計画は、個人ファイルに綴じているので職員はいつでも見られる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	○医療連携体制は検討しているが、実施していない。○入居者様からの緊急な外出にも対応している、又買物・外出については月1回実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	○民生委員には運営推進会議にも出席してもらい色々と働きかけをしているが、ボランティアの話は出ていない。○警察署・消防署には協力が得られるように、「ハールトだより」を3ヶ月に一回配布している。 ②利用者の意向に応じて、公民館や図書館等の地域資源を活用できるように働きかけを行っている。	○	○公民館・図書館等の情報を、町会長等から得て検討していきたい。
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	①必要に応じて事業所以外の介護支援専門員等との連携を図り、行政独自で行っている理美容サービスや配食サービス等を利用できるよう支援している。	○	○行政独自で行っている事は情報がないので、訪問理容サービスで安価で行っている。食事はホーム自身で作っている。
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	○地域包括支援センターの職員とは運営推進会議・入居者紹介等で色々と話をする機会があり、連絡は密である。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	○当ホームでは協力医療機関として梅村病院がかかりつけ医として協力してもらっているが、特殊な医療機関で診療している場合は変更なく受診できる。○梅村病院月1回の往診を受け入れている。○急性疾患については医療機関の看護師に連絡を入れ、指示を仰ぎ家族には連絡を入れている。		
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	○かかりつけ医として協力を得ているドクターから、指示や助言等をして貰っている。		
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	○訪問診療で来ている、看護師に連絡を取り相談し指示を仰いでいる。①利用者の普段の状態や持病等を十分に把握している看護師の資格を持った職員を配置したり、訪問看護ステーションとの連携体制が整えられている。	○	○医療連携は検討中である。
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	○以前に利用者・家族・医師・看護師・相談員・管理者・施設長との話し合いの経験もあり、整っている。○入院中に面談するようにしている。回復の様子を確認し、退院後の注意点等できる限り入院中の間に情報を得るようにしている。		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	○重度化した場合は、利用者家族に対し3ヶ月に一回の近況報告で事前に数回連絡をしている。その後、面会時には詳しく状況を説明し、家族の方に人的負担が掛かることも話し、当ホーム介護支援専門員が利用者・家族と一緒に他施設見学をし、入居手続きをしている。		
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	○カンファレンス・内部研修で利用者の状況を検討している。○利用者担当介護支援専門員との連携を取り、当介護支援専門員・利用者・家族等と一緒に他施設を見学をし、入居手続きをしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>46</p> <p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>○利用者の入居・退居に関しては、できる限り家族から習慣の違い等の不安材料をいかに除くか、ケア情報を共有する。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>47</p> <p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>○介護職の言動については日頃から、カンファレンス・内部研修等で教育をしている。○それ以外でも、対応が不適切だと思った時は、その場で注意している。</p>		
<p>48</p> <p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>○水分補給・おやつ時には職員も一緒にお茶を飲み利用者と団欒している。○レク活動は指・手・腕・頭を使えるように工夫をして静から動、動から静と考えるで行う。○近くにはぬり絵を常時置いて、利用者に使ってもらっている。○利用者が動かない時は、動ける利用者が移動し、協力してレク活動をしている。</p>		
<p>49</p> <p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>○利用者が第一優先と日頃から教育している。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>50</p> <p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>○外出の際や、日常、普段の時でも、利用者によっては、着替えをしたり、居室の洗面台の鏡で化粧をしている。○利用者個人それぞれの好みの髪形に訪問理容院に散髪してもらっている。利用者家族等に連絡し、希望に応じてなじみの美容院に出かけられる。○周囲に気配りしながら、さりげなく身だしなみ等を直したりしている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○献立は各職員が10日ずつ作成していたが、総体的にダブリがないように一ヶ月作成に変更している。利用者からの希望・要望も取り入れるようにしている。○食後の食器拭きは毎日行われている。○職員は変動休憩により、利用者の支援を行っている。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	○食品の買出しにおいて、買物代行を行って支援をしている。○男性利用者のアルコールについては、病気等もあるので控えている。(要望もない)		
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	○利用者の状態に応じて、リハパンから布パンツ、布パンツからリハパンを考えている。○利用者の排泄拒否もあるが、常に声がけを心がけている。○排泄パターンを把握し時間を見てはトイレ誘導するなど排泄の自立を目指し、援助している。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	○男性利用者には状況により、髭剃り介助も行うときもある。○入浴拒否者には再度声掛けにより、納得した上で、入浴している。②入浴日や時間帯、入浴方法等、利用者の意向を取り入れている。	○	○入浴時間に対しての要望は現在ありません。
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	○常に利用者の状況を見て眠そうであれば、自室に誘導休息してもらおう。○夜勤帯の睡眠状況を、常に把握している。○利用者の状態に応じて、かかりつけ医にはホームでの細かな情報提供により、判断を仰ぎ処方変更をしてもらおう。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	○利用者が常に満足できるように日々レク活動・音楽・運動を取り入れている。○気分転換できるように職員と一緒に合唱し楽しんでいる。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	○金銭管理をしている利用者の高額買物に関しては、家族の方に連絡をし、状況を話している。○もちろん金銭管理をしていない利用者に対しても同様に支援をしている。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	○天気の良い時期は、外への散歩に誘うと、回りが田んぼやりんご畑があるので、季節の移り変わりを知ることができ、気分転換も図れる。さらに、利用者がやっていた畑仕事を話題にして、長期記憶を引き出すよう働きかける。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	○買物ツアー・遠足では出来る限り今まで行ったことがない場所、また新しく出来たショッピングモールに行っている。○家族にも連絡を入れて、買物時は冬物・夏物の衣類を購入している。○利用者の意向で突然の外出については臨機応変に対応している。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	○利用者に電話が掛かってくる場合は、電話の子機を手渡し自室・小上がりで、会話を楽しんでいる。電話を掛けたいと希望があれば、その都度対応している。○手紙は頼まれればポストに投函している。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	○来客者には言葉遣いや態度に関して、快く迎えることが出来るように社内研修している。○利用者の家族や友人等が、来訪されれば、ホール内のソファや畳の小上がりでくつろいでもらえるよう声がけをしている。④家族等からの宿泊の希望に応じる体制が整えられている。	○	○利用者家族は泊ることが出来ないわけではないが、夜勤者一人の為に今までは実例がない。
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	○身体拘束は行わない、と認識して職員に徹底している、しかしやむを得ず、行わなければならない場合は家族の了解・書面により行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	○玄関の施錠は遅番の終了時間19:00に、開錠は夜勤者が6:00～6:30に風除室、玄関は日勤者が出勤する8:00に、しかし利用者がなんらかの原因で不穏状態であるときは、状況により短時間玄関の施錠のときもある。○居室には鍵は存在しない。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	○ホールから一面全居室が見守る事ができるので問題はない。調理で台所に居る時でも、鏡を利用してホール内を観察できるようにしている。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	○刃物の保管場所には施錠するようにしている洗剤は倉庫に予備を保管し、常時、施錠している。○利用者の薬剤・消毒剤等は事務室奥の休憩室に保管している。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	○事故防止については再三、カンファレンス・内部研修・事故後の検討会等で話し合いをして徹底している。○市役所に提出の事故報告書まで行かない、小さいつまずき・歩行のバランス・椅子に座るときのつまずき等、ヒヤリハット報告書・事故報告書をホーム内提出し、職員の回覧・捺印をする。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	○緊急時の対応に参考になるようマニュアルも作成している。○全職員が1年に1回管轄消防署から講師を招き救急救命講習を受けている。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	○非難訓練は1年に2回定期的に行っていて、夜勤帯を想定し実施している。○運営推進会議で近隣の2軒の方々には、協力が得られるように働きかけている。警察署・消防署には3ヶ月に一回「ハールトだより」を配布し情報を提供している。④災害発生時に備えて、食料や飲料水、トイレ、寒さをしのげる物品等を用意している。	○	○特別に用意はしていないが、ストッカーにはほぼ食料が入っている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	○利用者の家族には近況報告書にて3ヶ月に一回情報を提供している。○家族とは必要に応じて実施している。○状況変化に対しては、カンファレンス・内部研修・連絡帳にて検討して、見直しを行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	○利用者の年齢を考慮して顔色・排尿・排便・行動の変化を見逃さないように随時注意している。変化を発見した場合は、記録に残している。○風邪症状には常に気を配り、訪問診療でお世話になっている看護師に連絡を取り支持を仰いでいる。○利用者個々のプライバシーに配慮しながら、重要な情報を共有している。急に、変更になった指示等も申し送りに漏れないようにしている。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	○利用者の薬剤は受診記録、又は緊急を要するときは、申し送りノートにも記載している。○飲み忘れは、何重にも確認している。○服薬後、状態変化がある場合は、家族に連絡をし、医師には書面で情報提供をしている、処方変更も出ている。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	○利用者の健康を考え、人工甘味料等を使い水分補給の摂取に努めている。○個々の状態に合わせ食事や排泄誘導、また運動への声かけ等を行っている。特に排便は事務室に、チェック表を作成し掲示している。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	○食後の口腔内の洗浄や入れ歯の手入れは、声かけや必要に応じては介助している。その際に、口腔内の出血や炎症をチェックしている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	○栄養士によりカロリー計算を数回行っている、又月一回の体重測定により変動があれば、摂取量を検討している。○必要に応じて利用者の水分・食事の摂取量は把握し記録に残している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	○保健所との連携は取れていないが、調剤薬局の薬剤師からの情報提供・感染症に関する情報・指導・勉強会を開催している。○インフルエンザワクチンは全職員、利用者全員接種している。○感染症に対してのマニュアル文書は作成し、配布している。また目の付く場所にも貼ってある。予防の為に「うがい・手洗い」は随時、遂行するよう職員に話している。○ノロウイルスに関しては、毎日掃除の時ホール内の手すり等の消毒を行っている。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	○食品庫・冷蔵庫・冷凍庫・食器棚等は、定期的に清掃している。汚れがひどい時は、随時行う。○調理器具は使用后、乾燥させ片付ける。まな板は、食材によって使い分けをしている。○残った食材には、日付を書き新鮮な内に使用している。食材買出しの時、残っている食材をチェックし買い物をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	○玄関には、鉢植えの草花を置いてある。季節によりボランティアから菊の鉢植えを提供してもらっている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	○ホールにはソファが2ヶ所、2～4掛けテーブル、畳の小上がり、玄関にはベンチも設置して、好きな所で自分なりの時間を過ごせる空間がある。○ホール壁やクリップボードには、季節に合わせた飾り付け、利用者の作品等も展示している。○天井には明り取りがある。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	○ホールには2ヶ所ソファを設置し、小上がりの畳でくつろぐこともできる。玄関にベンチを置いているので、利用者がそこに座り外を眺めることができる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	○入居時利用者や家族等に、家具やタンス等使 慣れたものを自宅から持参するように話して いる。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	○換気扇は常に稼働している。○特に冬季間は温 度調整はもちろんであるが、湿度計を見て加湿 器2個で対応している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	○手すりはホール・食堂・トイレ・浴室・ベッ トサイドに設置している。○物干しは、一般家庭 内で使うような折りたたみ式の物もあるので、 利用者がそれに自分で干せる。○利用者の状 態に応じて車椅子・歩行器を用意している。 ○内部研修等で環境改善がある場合は検討 している。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	○カンファレンス・内部研修等で変更に関し ては結論を出して実施している。○毎日の掃 除で壁や床のひどい汚れ等は、こまめに落 とすようにしている。半年に一度はワックス がけをするので、ホーム全体をチェック可 能。○各居室・トイレのドアは似ているがド アの色が違うし、目印となるよう、シール や「トイレ」と張り紙をしている。居室の ネーム札には、ネームの他に、本人の顔写 真も一緒に貼っている。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	○庭に花を植え、玄関には鉢植えの草花や ベンチを置いている。○物干し場や園芸場 所があり、水撒き、草取り、野菜の苗植 えや収穫を行っている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)